

国際資金フローと世界金融危機

サブプライム危機、ユーロ危機に端を発する世界金融危機の発生は、世界経済に新たな課題を突き付けている。危機の発生要因と増幅のメカニズムは多岐にわたっており、様々な側面からの考察が不可欠である。ただし危機の深層において、金融機関の特異な行動が存在していたという点、危機がグローバルな様相を呈していたという視点はきわめて重要である。そこで本パネルでは、金融危機が「世界金融危機」と変容していく姿を、国際的な資金フローの一層の拡大と、金融機関の新たな行動様式という視点から考究していくことにする。報告者は、政策当局、実務、学界のメンバーから構成されており、多面的なアングル、アプローチに基づく考察が展開される。

「国際資金フロー・欧州金融機関・金融危機」(松林・藤田・北野)では、2000年代前半からの欧州金融機関の行動をグローバルな資金フローとの関係において捉え、その特異な行動様式とグローバル金融危機との関係を、金融機関データを用いて精査していくことにする。「金融危機とバイルアウト・バイルイン」(中空)は金融危機時における「バイルアウト」あるいは「バイルイン」という新たな課題を、預金取り付け、預金者保護との関係において検討していくことが不可欠である点が明らかにされる。実務家の視点にもとづく、金融市場の精緻な観察に裏打ちされた考察が展開される。「金融危機と信用外部性」(加藤)は、世界金融危機後に発展してきた金融危機に関する理論的考察を展望するとともに、独自の知見が紹介される。銀行システムと金融危機を扱う新たな理論的考察の進展を考慮した上で、「信用外部性」という側面に焦点をあて、自由放任的な銀行システムが引き起こす金融危機の発生可能性について精緻な分析が報告される。